

INTERNATIONAL ERIC NEWSLETTER

No. 10

FEBRUARY 1992

エリック ニュースレター

国際理解教育・資料情報センター International Education Resource & Information Center

特集：みんないっしょに暮らすなら？

事例 1：

わたしならこうする

- ねらい：
- 可能な解決方法を考え、選択する。
 - 解決策をいかに実行に移すかを学ぶ。
 - 生活の場を利用して問題解決力を高める。

A. はじめのいっぽ／

準備するもの：プリント（人数分）

展開：

1. 各自でプリントを完成する。
2. グループ（4～5人）で各自のプリントを見せ合う。
3. 次のことを話し合う。
 - 最初にすべきことを考えることはなぜ役に立つか。
 - 同じ問題の解決のため最初にすべきことは、いくつもあったか。他の人と比べてみよう。

B. どうなるのかな？

準備するもの：カード（年齢に合わせてカードを作成）

展開：

1. カードの束を見せて、どのカードにも対立・衝突が起きた場面の書かれていることを伝える。
2. 各グループ（4～5人）でカードを1枚ひいてもら

- う。（カードの内容が見えないように裏向きに重ねる）
3. （グループで）自分たちのひいたカードに書かれている出来事からどんなことが起こりうるかを話し合う。
 4. （全体で）グループごとに、自分たちのカードを紹介し起こりうることについて話し合いの結果を発表。
 5. 次のことを話し合う。
 - どうして結果や成り行きを考えることが重要なのか。
 - もし考えないとどんなことになるか。

C. マンガで解決

準備するもの：B4の紙、クレヨン

展開：

1. B4の紙を全員に1枚ずつ配る。8つ折りにする。

目次

〈特集〉みんないっしょに暮らすなら？

事例1：わたしならこうする	1
事例2：対立・衝突を解決するチェックリスト	2
事例3：目撃者	3
事例4：交渉する	3
事例5：けんかレポート	4
事例6：どんな絵がかけるかな	5
事例7：新聞からみえてくること	6
事例8：気球が落ちる！！	8
事例9：みんなでやりたい	8
事例10：プーメラ市のジレンマ	9
事例11：みんなといっしょにやってみる	11
情報コーナー	12



2. 各自で「対立・衝突が発生した場面」について3～5つの短文を書く。身の回りの出来事（けんか、言い争いなど自分自身の問題）でも、世界の出来事や架空の話（宇宙、空想の世界）でもよい。
3. 2で書いた文の中から1つ選び、それをもとに8コマのマンガを描く。対立・衝突に関わっているすべての立場のひと（もの）が「よかった」と思えるように解決する過程を表わす。「絵の上手下手は重要ではありません。線で描写した簡単な絵でいいよ」

*教師が場面を設定してもよい。

*実際に起こった問題が、子どもにとってあまりに深刻だったり、恐怖心を抱かせるようなものである場合は、集団で問題解決学習の機会として扱うには適当でない。

プリント【はじめのいっぽ】

次の文を読み、自分だったら最初に何をするか書きなさい。

- 1 誕生日のケーキを人数分に等分に切りたい。
- 2 友だちにプレゼントを買いたい。
- 3 A子は男子の野球チームに入れてほしい。よいピッチャーだとわかってほしい。
- 4 A男は祖母と一緒に住んでいる。見たいテレビ番組を祖母は見せてくれない。祖母の気持ちを変えたい。

カード【どうなるのかな？】

次の文を読み自分だったらどうするかを考え、①まずどうするか（1つ）②するとどうなるか（2つ）を書きなさい。（1つの文でカード1枚）

- 1 近所に毎晩大きな音で音楽をかける人がいる。
- 2 試験中、隣の子がカンニングをしている。
- 3 友だちが自分のことをふざけた名前前で呼ぶ。
- 4 この国は隣国の農薬のせいで水源が汚染されている。
- 5 この星には武器がない。隣の星が攻めてきてみんなを奴隷にすると脅迫している。

事例 2 :

対立・衝突を解決するチェックリスト

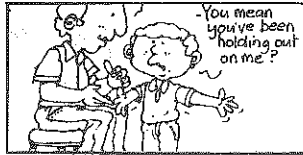
ねらい：対立・衝突が起きた時に、注意深く状況を見て原因を把握し、解決策を考える。

対象：幼～小（低～高学年）

展開：

- 1 「自分が仲裁人で、クラスの仲間を助けてあげるとしたら、問題の解決にとりかかる前に、どんなことを知っておく必要があるかな。」
- 2 提案をすべて黒板に書き出す。意見が出つくしたら、似ているものや役に立たないものはどれか話し合い、似ている提案は1つにまとめ、役に立たないものは消して、5～6の提案を残す。
- 3 2で残った提案を優先順位の高い順に並べ変える。これが「対立・衝突を解決するチェックリスト」である。このリストは、対立・衝突を誰もが納得できる方法で解決するために必要だと説明する。
- 4 例えば次のようなリストができるだろう。
 - 1) 誰が関わっているのか。
 - 2) 何をやったのか。
 - 3) どのようにやったのか。
 - 4) Aさんは何を望んでいるのか。Bさんは・・・
 - 5) どんな種類の対立・衝突か。
 - 6) この人たちに必要なのは何か。
- 5 次のことを話し合う。
 - ・リストに基づいて集めた情報はどの程度役に立つか。
 - ・こういうことがわかったらそれをもとにどうするか。
 - ・対立・衝突を上の方法で分析することが、なぜ役に立つのか。





事例 3 :

目撃者

ねらい：物事を注意深く観察する。

対象：幼～小（低～中学年）

準備するもの：マイク、対立・衝突の写真（複数）

展開：

- 1 写真を30秒間、じっくり観察させる。
- 2 一人の児童を指名してマイクを差し向け、「テレビを見ている皆さんに、写真の中で起こっていることについてお話してください。」何人が指名する。
- 3 次のことを話し合う。
 - ・事例2のチェックリストの質問全部に答えていたか。
 - ・それは重要な点だったか。
 - ・説明は人によってどのように違っていたか。

事例 4 :

交渉する

ねらい：対立や困難な場面で、相手と交渉して解決する力をのばす。

対象：小（低～高学年）

展開：

- 1 黒板に「交渉」と書き、意味が解るか訊いてみる。
- 2 交渉が、対立・衝突が起きた場合、関係者全員が納得できる解決のための手段だと説明する。
- 3 次の手順を黒板に書く。
 - 1) 何が問題だと思うか言ってみる
 - 2) 何を望んでいるか言ってみる
 - 3) 何が制約となっているか言ってみる
 - 4) 全員の合意が得られるように努力する
 - 5) 全員が満足しているかどうか尋ねる
- 4 例を設定して各自で3をやる（身近にありそうな場面が望ましい）。

5 次のことを話し合う。

- ・交渉の場はどういう状況がよいか。
- ・相手に交渉に応じてもらうにはどうするか。
- ・相手が交渉に応じてくれなかったらどうするか。
- ・交渉の途中ではどんな問題が生じうるか。

*教科・科目での導入例

算数：

- ・子どもが5人、クッキーが14個ある。全員に公平に分けられるように話し合いで決めてください。
- ・中古の自転車は8000円する。もっと安く買えるように交渉してみてください。

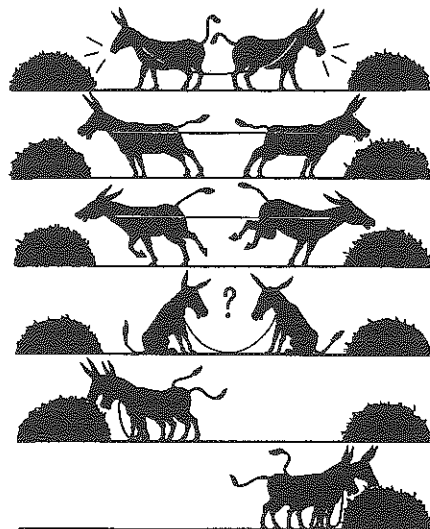
社会：

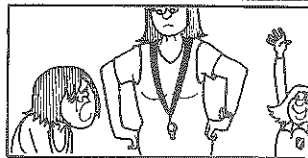
- ・町の人口が増えたので新しい下水設備が必要だという人が出てきた。しかし、工事にかかる費用が高すぎる、工事が交通のじゃまになるのは困るという人もいる。この問題を解決するにはどうしたらよいか。
- ・あなたは白人の開拓者で、先住アメリカ人にも公正なやり方で、住む土地を得たいとおもっています。後で戦いにならないような協定を結んでください。

理科：

この町の製紙工場は、町の人に仕事を提供しているが、一方では、廃棄物が川を汚染したり、自然を破壊したりしている。環境保護をうたえる人たちと会社との間で協定を取り決めてください。

出典：CREATIVE CONFLICT RESOLUTION, William J.Kreidler, Scott, Foresman and Company, 1984





事例 5 :

けんかレポート 〈実践報告〉

報告者 安達 昇先生 神奈川県横浜市立藤が丘小学校

◇題材設定の理由

学級生活の中では、よくトラブルがありけんかになってしまう。原因はいろいろあるが、話をよく聞くと、初めはささいなことが多い。そこで、自分自身でけんかの原因を考えてみるのが大事である。そして、けんかに発展する前に解決することを考えたい。

◇目標

- ・けんかの原因を考える
- ・けんかにならないで解決できる方法を考える

◇準備

アンケート用紙 (No1、No2)

No1 「けんかレポート」

- ①だれとけんかしましたか？
 - ②げんいんはなにですか？
 - ③どうしてけんかになってしまったのですか（わけを2つ書く）？
 - ④けんかをしてげんいんはかいけつしましたか？
 - ⑤おなじことがまたおきたらどうしますか？
 - ⑥けんかをした人にいいたいことを書きなさい。
- (⑤⑥は高学年のみ)

No2 レポートをよんで手がみをかく

_____さんへ

けんかをしないでげんいんをかいけつするほうほうはね、それは、

◇学習の流れ

1. 学習のめあてを知る。けんかについての経験を話す。教師の経験でもよいが結論は話さない。

2. 「けんかレポート」(No1)を書く。何を書いてもいいと指導する。
3. グループごとに「けんかレポート」を廻し読みする。何人かは全体に発表する。
4. 手紙を書く。全部に手紙を書かなくても書けるだけでよい。相手の気持ちを考えながら書く。
5. 同じことが起こったらどうするか話し合う。自由に発表させる。

◇発展教材

「けんかレポート」をけんかをした当事者に書いてもらい、お互いが考えていくという方法もできると思う。その場合、アンケート用紙には⑤⑥はあった方がよい。高学年の場合は、話し合いを中心にしていくことが大切であるが、たてまえにならないように自分との関わりがでてくるように指導したい。

◇授業をして

けんかは子どもにとって身近である。そのうえ、クラスや友達にとどまらず、兄弟姉妹、親とのこともある。けんかは子どもの生活すべてに広がっている。けんかについての関心は強く、授業はスムーズに入れた。けんかの内容も口げんかから直接手を出すまで多面にわたっている。手紙は友達としての気持ちが表われているが、「けんかをしない」という言葉のとらえ方が「けんかのあやまり方」「仲直りの仕方」になっている子もある。ただ、けんかをして解決したらいいという子も多くいた。

出典：CREATIVE CONFLICT RESOLUTIONの事例を応用

けんかレポート

①だれとけんかしましたか？
おにいさん

②げんいんはなにですか？
これした

③どうしてけんかになってしまったのですか（わけを2つ書く）？
けんかしたから
けんかしたから

④けんかをしてげんいんはかいけつしましたか？
たがかりを
り。たがかりを
ました。
そしてなかな
した。

木村 大介
けんかをしないでげんいんをかいけつするほうほう。
それは、
おんは「これをこれしたならなんかいけつしたほうがいいです」です。



事例 6 :

どんな絵がかけるかな？

ねらい：・協力して一つのことを成し遂げる
・他の人のことばを正確に聴きとる力、他の人に正確に指示を出す力をのばす

準備するもの：フェルトペンやクレヨン、紙（人数分）
見本の絵（二種類）

展開：

1. 二人一組で座る。

「ペアごとに協力して、見本と同じ絵を描きます。但し、役割を分担します。片方の人が見本の絵を見て、同じ絵を描けるように、相手の人に指示します。もう一人は、指示をもとに絵を描きます」

*年齢に応じて複雑なものや単純なものを見本に選ぶ。
図形でもよい。

2. 役割を決める。絵を描く人は後ろ向きに座る。

「交代で何回かやります」

3. 見本の絵を見せる（黒板か模造紙を使う）。

「これと同じ絵を描いてください。指示する人は、わかりやすいように順番に指示して下さい。但し、次のルールを守って下さい。①指示する人は、相手が描く絵を見て笑ったり、怒ったり、批判したりしない②指示はひとつひとつ出し、最初に何の絵か言ってしまう③描く人はいっさい質問をしない」

4. 全部の組が描き終えたことを確認する。

「どんな絵ができたかな？」隣、前後で絵を見せ合う。
見本の絵を全員に見せる。「こんな絵になったかな？」

5. 交替して、1～4を繰り返す（見本は別のものを使う）。但し、ルール③を変えて、描く人は、相手の指示に関して質問したり確認したりしてもよいとする。

6. 上の活動の体験をふりかえり、まず各自で考え、次にグループで話し合う。

・指示を出す人、絵を描く人になって、それぞれどんなことを感じた（気づいた）か。難しかった点は？

正確な絵を描くためのコツはなにか。

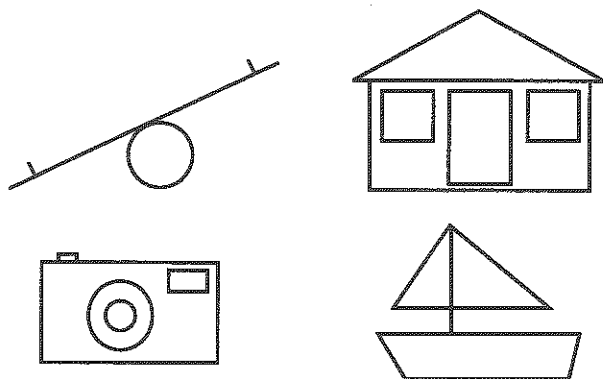
7. 他のグループと意見を交換するか全体で話し合う。
8. 「上の活動と似たことを日常生活で体験することがあるかな？」

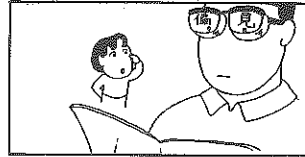
応用：見本の絵の代りに、いくつかの図形を示し、この図形を組み合わせた絵を各自で自由に描いてもらう（相手に見えないように注意）。その後、二人一組で、指示する人と絵を描く人に分かれ、指示する人は、自分の描いた絵をもとに相手に指示する。

【現場から一言】 宮田先生、中学校数学

道徳の時間を使った「国家、民族の文化の尊重」の学習で実践してみたい教案だ。前時の授業でウェールズ語の禁止政策について学習したが、知識として学ぶ面が強くなってしまった。毎日使っている「言葉」というものに注目し、コミュニケーションの手段として重要であること、正確に伝えるためには努力が必要であることを体験を通して実感させたい。その上で、言葉を禁止されてしまうことの重みを改めて考えさせたい。実践にあたっては、普段の道徳のイメージとは違うので生徒が取り組みやすい雰囲気づくりが大切。また、中学3年生ということを考えると、話し合いにいくつか工夫をしたい。たとえば、男女別のグループにし各自が内面を話しやすくする、話し合いの要点を書いたプリントを準備し、書き込めるようにするなど。教師の方からまとめることはしないで、「今日の授業で感じたことを、これからの生活の中で生かしましょう」としたい。（談）

出典：COPING WITH CONFLICT, A Resource Book for the Middle School Years, Frances Mary Nicholas





事例 7 :

新聞から見えてくること

ねらい：・新聞に親しみ、報道を通して世界の出来事や動きに関心をもつ。

- ・同じことが異なる形で報道されうることを理解し、情報を主体的に活用できるようになる。
- ・マス・メディアが伝える「平和」「暴力」について関心を高める。

準備するもの：日刊新聞（同じ日の異なる5～6社の新聞、全国紙と地方紙の両方）

展開：

1. グループ（4～6人）に分かれる。各グループに1社の新聞を配る。

*特に難しい語句が多いと思われる新聞は、少なくとも1人は読むのが得意な子どもがいるグループにあたるように注意する。

2. 紙面の構成に慣れるために次のような質問をする。
「スポーツに関する記事はどこにあるかな？ 天気予報は？ 読者の手紙コーナーはどこだろう？ 漫画は？」

3. 年齢に応じて新聞に関する基礎知識を確認する。

- ・編集者の役割、社説、記事、見出し
 - ・ニュースになる条件、ニュースにならないもの
4. このあと次の5つの活動ができる（全部をやっても1つだけでもよい）。

a

1. (全体で) グループごとに、自分たちに配られた新聞の第一面に載っている見出しをすべて、順番に、声を出して読み上げる。

2. 次の点を各グループで話し合う。

- ・それぞれの見出しの意味することは何か？
- ・見出しは社によってどのように違うか？
- ・見出しから、社や読者の特徴について何かわかるか？
- ・ある新聞で記事になったニュースは、他の新聞でもとりあげられているか？

- ・見出しの言葉に注目する。特徴はないか？
- ・新聞社によってどんな違いがあるか？（例：紙面の大きさ、新聞の厚さ、見出しの大きさ、スペースのとりかた、写真、広告など）

b

1. 全部の新聞がとりあげた記事を1つ選ぶ。

「グループごとに〇〇に関する記事を切り抜こう。下の空いている部分に新聞名とページ数を書いてね」

2. 各グループの切り抜きを集め、一枚の模造紙に貼る。
3. 模造紙に貼ったすべての記事に全員が目を通す時間をとる（数日間掲示しておいてもよい）。
4. 全員がすべての記事を読んだことを確認してから、次のことを話し合う。

- ・各社の記事はどのように違うか？
- ・各社の記事に書かれていないことは何か？
- ・各社の記事が違うのはどうしてか？
- ・事実を偏った視点で伝えている記事はないか？
- ・上の質問に答えた自分は偏った見方をしていないか？
- ・出来事について真実を過不足なく完全に説明することは可能か？

c

1. (グループで) 今日の日本の生活がよく表われている記事を10選んで切り抜く。

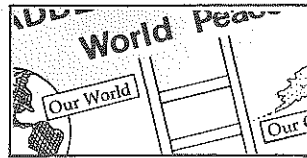
2. 10の切り抜きを特定の基準のもとにランキング（順位づけ）する。例：①中国のペンフレンドに手紙を書く時に、日本の生活がわかる記事を1つ同封するとしたらどの記事が一番ふさわしいか②100年後に開けるタイムカプセルに、現代の生活がどうだったかを示す記事を6つ入れるとしたら…という想定で、重要な順に番号をつける。

3. グループごとに切り抜きを1枚の模造紙に貼る。

4. (全体で) できたものを他のグループと互いに見せ合い、グループによってどんな違いがあるかを話し合う（プリント「どんなことが記事になるか」を参照）。

d

1. (グループで) 平和か暴力（あるいは両方）に関連する記事を探して切り抜く。



2. (グループで) 1枚の模造紙に横線を引き、片端に「平和」、もう一端に「暴力」と書く。
3. 切り抜きを、どの程度「平和」や「暴力」を感じるかに従って位置を決め、2の線上に並べる。
「グループで全員が納得するまで話し合っ決めてよう。平和と暴力の両方に関係する記事はどこにおく? (たとえば平和維持軍(PKF)など)」正解はないことを確認しておく。こどもたちが「平和」「暴力」の意味について考えを深め、新聞には「平和」「暴力」がどのように表わされているかに気づくことがねらい。

e

1. 新聞は世界についてどんなイメージを与えるか、各自で考えて作文を書く。
2. グループ話し合い、全員が納得する内容をまとめ、全体で各グループの結果を発表する。

プリント

どんなことが記事になるか(報道されるか)

- 1 自分たちの探している記事は簡単に見つかったか?
- 2 各グループの作品(10の記事を貼った模造紙)を比較して、今日の日本の生活を、ありのままに伝えているものとそうでないものがあると思うか。もしあるとすれば、この違いは、記事の掲載されていた新聞社に関係があるか? 例えば、ある出来事について、地方紙は全国紙とは異なる側面を伝えているか?
- 3 編集者は、新聞に掲載するかどうかをどのように決めていると思うか?
- 4 一番読みたいのは、どんな種類のニュースや記事か?
- 5 新聞で報道されにくいのは、どんな出来事だろう?
- 6 新聞社によってどんな違いがあるか(例:ある新聞社は個人的な内容の記事が多く、別の新聞社は政治関連の記事が多い)

【現場から一言】 善財先生、中学校社会

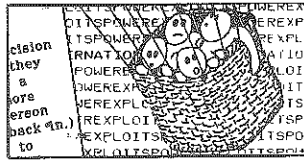
中学では3年の公民でマスコミについて学習する。「マスコミの役割と問題」に、「…大きな役割を果たしているだけに、特定の政治的立場が強く影響するようがあると、国民の判断を狂わせてしまうおそれがある。

(中略)受け身でとらえる結果、多数の人々が画一的な考え方をもちことになりやすい(東京書籍)とある。授業では「社によって違うことがある」程度の簡単な説明ですませてしまいがちだ。本教案は、生徒が新聞に親しみながら、新聞を読むことが大切であることや社によって報道の仕方に違いがあることなどに気づいていくよい機会をつくる。

5つの活動を、任意の日の新聞で行なうと無理があろう。昨今、経済記事が一面トップ記事になることが多いが、生徒には興味が薄く難しい。また、社会科の教員でも、事前に勉強しておかないと、記事に関して生徒の疑問にその場で説明を加えることは難しい。生徒の興味を引きやすい記事や、生徒に理解のできるレベルの記事を選んで実践したい。

活動aは、わかりやすい記事が一面に出ている日の新聞を保存しておく。見出しの言葉の特徴を問う発問はおもしろいが、見出しに見られる各社の違いを検討するには、一面より社会面の方が各社の個性が表われやすいそうだ。bは、「事実を偏った視点で伝えている記事はないか?」というのは、有意義な発問である。スポーツ新聞を例にとると、報知新聞は巨人に好意的な記事が多いと言われている。新聞のスポンサーによって意見が異なるわかりやすい例である。cは、新聞という身近なものから自国理解を深めるという点で非常によいと思う。dは、おもしろそうだが、「死者〇〇人」等という記事ばかりが選ばれ、国際情勢を理解していない多くの生徒は、記事の死者ということだけに注目しそうである。50分の授業で、意見を深めるのは難しい。授業後も継続して、日常的に暴力と平和の記事を収集、廊下や掲示コーナーに掲示し、ときおり授業で取り上げていくという活動をぜひやりたい。こうして新聞への関心を十分に高めておいてから、eの活動を取り入れるとよい。(談)

出典: COPING WITH CONFLICT, A Resource Book for the Middle School Years, Frances Mary Nicholas



事例 8 :

気球が落ちる!!

ねらい：・自分の意見を主張する。

- ・人の存在価値と様々な権力のありかた、また両者の関係について理解を深める。

展開：

- 4～5人のグループに分かれる。
(できれば)各グループは、床にグループの全員が入れる大きさの円を描き(室内であればチョークで、あるいは屋外で)、その中に入る。
- 「みんなは今、飛行中の気球の籠の中にいます。各グループのメンバーは、それぞれ異なる役を受け持ちます。1番から4(5)番までを決めて下さい」
番号に従って下の役を振り分ける。
 - 先進国の大統領(首相)
 - 難民
 - 世界的に有名なロック歌手
 - 失業中の若者
 - 銀行の幹部
- 突然、気球が猛烈なスピードで下降し始めた。このままでは海に落ちて、全員助かる見込みはない。その前に誰か1人を放り出さなければならない。
「みんなは、なんとか自分が助かるためにそれぞれ理由を考えて他の人たちを説得します。時間は10分しかありません。それまでに話し合っ誰が放り出されるのかを決めなくてはなりません。自分の存在価値を主張して下さい。話し合いがまとまるまでは、外へ押し出したりしてはいけませんよ」
- (全体で)各グループで誰が放り出されたかをきく。
- (グループで)
「なんとかが無事に海の上を通り越して、漂着したところは小さな無人島でした」
5分間、各グループで先に自分たちが下した決断について、もう一度話し合う。無人島につくことがわかっていたらどんな決断をしていたか。放り出された人も円の中に戻って話し合いに参加する。

- (全体で)各グループで話し合ったことを発表する。
- 次のことを話し合う。

- ・わたしたちは、人の価値を考える時、どのような基準で判断しがちか? それは正しいやり方か?
- ・自分の運命を自分で決定できるには、どのような力が必要か。その力はどのようにして得られるか。

[現場から一言] 梅村先生、高校地理

いやなカードをどうやって他人に押しつけるかというトランプゲームがあるが、多分に偶然性による。この活動は、自分の存在価値を繰り返し主張することで勝負が決まる。国際理解・異文化理解は、とすれば「笑って手をつなぎ…」で終わっていないだろうか。コミュニケーションが第一歩であるとM. スタイナー氏も強調していた。私たちが最も不得意とするコミュニケーションの訓練にこうした活動が大切だと思う。

出典：CREATIVITY, Creative Workshops for World Concern, Y Care International, 1988

事例 9 :

みんなでやりたい

A 協力

- ねらい：・みんなで協力して1つのことをやり遂げる。
- ・ひとりひとりが力や知恵を出し合って創造する楽しさを味わう。

◇どんな動物ができるかな

グループ(5～7人)に1枚ずつ新聞紙を配る。グループごとに、まずどの動物をつくるかを決めて順番に新聞紙を回し、ひとりが1か所ずつちぎって全員で動物の形に完成させていく。次に、どの動物かを決めずに新聞紙を回し、黙って同じことをする。どんな動物ができるかな? 言葉を使わずに他の人の考えを察することができるかな?

B 信頼



- ねらい：・他の人の長所を見つける。
・物事のよい面を見出し前向きな姿勢でのぞむ。

◇ともだちの輪

全員が輪になって立つ。オニは、目かくしをして輪の中に入り、まっすぐだれかにぶつかるまで歩く。ぶつかられた人は、オニが輪の外へ出ないように、両手でゆっくり向きを変え、歩く方向を示してあげる。これを繰り返す。順番にオニになる。次のことを考える。目かくしをして歩くのはどんな感じだったか？ ともだちの手に触れた時、どんな感じだったか？ オニを2人、3人…と増やすとどうだろう？ 他の人がうまく方向を示してあげれば衝突しないで歩くことができるかな？

C わかちあう

- ねらい：・自分にも必ず他の人と分かち合える部分があることに気づく。
・他の人に関心をもち、思いやる気持ちになる。

◇3つの願いごと

瓶にとじ込められていた魔神を出してあげたら、お礼に願いごとを3つかなえてくれると言う。1つめは自分自身のため、2つめは家族のため、3つめは世界のため…さてあなたは どうしますか？

◇インタビュー

他の人のことをよく知るためにはどうしたらいいか？ …様々な質問をするのも1つの手だ。2人1組で、相手のことをよく知るためにきいてみたい質問を、まず各自で書き出してリストをつくり、相手にインタビューする。次に、2人で互いのリストを見せ合い、その中で最もよい質問を選びリストを作り、他の人にインタビューする。

◇こんなふうになったらいいな

理想の世界に自分がいるところを想像する。自分はどんな人間だろう。外見は？ 得意なことは？ 性格は？ 今の自分と全然違うかな？ 理想の自分について作文や詩を書こう。理想の家族、週末、夏休み…についても想像してみよう。

出典：CO-OPERATION IN THE CLASSROOM, Global Co-operation for a Better World, 1989

事例 10：

ブーメラ市のジレンマ

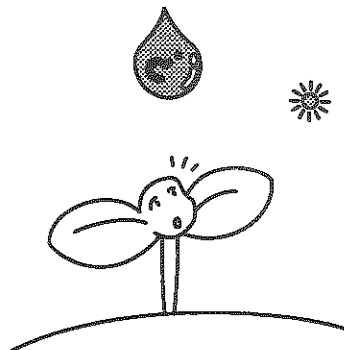
- ねらい：・軍拡競争を、雇用、資源利用、発展途上国への影響などに関連させて理解する。
・世界的課題を、複数の要因や多様な立場から考え、多角的な視点で物事を見たり主体的に考えたりできるようになる。

準備するもの：プリント（人数分）

時間：1時間

展開：

- 5つのグループに分かれ、各グループは1つずつ役を分担する（プリント参照）。
- （全体で）教師はプリントを見ながら役と背景について説明する。グループの課題を伝える。
- （グループで）それぞれの役について十分理解した上で、マルチスペース社の計画に許可を与えるかどうかについて賛成か反対かを決め、その理由を考える。グループごとに一人ずつ公聴会での発言者を選ぶ。
- （全体で）公聴会を開く。最初に各グループの代表者が発言し、その後、全員で質問や意見を出し合う。
- 意見がほぼ出つくしたところで、マルチスペース社の兵器工場進出を許可するかどうか全員で決定する。
- 次の点を話し合う。
 - なぜ工場進出を許可する（しない）か。
 - ブーメラ市で兵器製造が始まると、恩恵を受けるのはだれか？ 犠牲になるのはだれか？
 - 開発途上国への武器輸出に、自分たちの国は関わりがあるか？ あるとすればどのような関わりか？





プリント【ブーメラ市のジレンマ】

背景：

ブーメラ市は、人口3万。失業率が極めて高い。新卒者の2人に1人は失業手当を受けており、昨年度は土木、機械業界の不振で2千人もの熟練工が解雇になった。

マルチスペース社は、テレビ、ビデオ、洗濯機などの家電製品から兵器まで、幅広く製造する大企業で、今度、新しくブーメラ市に工場を建設し、ライフル銃や政府諜報機関向けのエレクトロニクス製品を生産する計画を立てている。ブーメラ市議会は、計画に許可を出すかどうかを決めるため、公聴会を開催することにした。

課題：各グループは、公聴会で自分たちがどんな発言をしたかを考え、準備する。

1 マルチスペース社（部長、技術課長）

工場を失業率の高い地域に新設することを条件に、政府から100万ドルの融資が受けられる。ただし、候補地はブーメラ市以外にもある。また、政府からは既に1500万ドルのエレクトロニクス製品と3000万ドルのプロトタイプ・ライフル銃の注文をもらっている。アジアや南米へのライフル銃の輸出ものびそうだ。扱う数量が多いほど一本あたりの輸出経費は安くなる。新工場では70人（60人の熟練工と10人の新卒見習）を雇う計画である。公聴会でどのように市民を説得したらよいだろうか？

2 ブーメラ市商工会議所（商店、中小企業）

経済的な余裕のある市民が少ないために、商店街は売れ行き不振。工場誘致で仕事が増えれば景気もよくなるだろう。工場誘致を歓迎する表向きの理由は国防のためだが、本音は購買力のある人に少しでも増えてほしいところ。公聴会で自分たちの立場をどう説明し、マルチスペース社にどんな要求をしたらよいだろうか？

3 ブーメラ市平和協議会（教会、平和団体などの集まり）

兵器輸出は開発途上国に悪影響をもたらす。輸出されたライフル銃は、殺人や、貧しい人たちを抑圧するのに

使われる。兵器工場があれば、核戦争の時にはブーメラ市も標的になるだろう。工場誘致には断固反対だが、公聴会でどう説明すれば、失業者を納得させることができるだろう？

4 ブーメラ市労働者連合（地域の労働組合、医療関係者、教育関係者、商店の従業員）

仕事を確保することが最大の関心事だが、どういう仕事なら自分たちの技能を活かすことになるかも気になる。政府にブーメラ市に補助金を出したり兵器を買う金があるなら、一部を別の使い道にまわせないだろうか？たとえば、ホームレスの人々のための住宅建設、別の産業の振興、道路の修復、失業者の職業訓練などをしては？

5 失業者クラブ（余剰労働者、たとえば電気技師、溶接工、機械操縦士、未経験新卒者などの集まり）

仕事のないことがどんな感じかを公聴会で訴えたい。しかし、同時に自分たちにとって本当に必要なものは何かも考えなくてはならない。工場が雇う70人の一人になれるとしたら、兵器工場で働くことについてどう思うか？公聴会では、どんな発言をしたらよいか？どんな要求をしたらよいか？

【現場から一言】 梅村先生、高校地理

高校一年の「現代社会」に、地方自治や民主政治の理念を扱う項目がある。地方自治は住民が参加できる最も身近な政治への関わりであるが、具体的にどのように関わっていくかを学ぶ事例は、見つけにくいのが実情である。この活動は、地域の発展に私たち一人ひとりが責任を負うことを認識するのによい教材だ。ロールプレイというのはやってみると意外に面白い。ここでは軍需工場だが、化学工場など他の業種に代えてもできそうだ。

出典：LEARNING FOR A FAIRER FUTURE, Lyn Waddell, World Development Tea Co-operative, Geography Teacher's Association of New South Wales



事例 11:

より公正で協力的な人間関係を築くために みんなといっしょにやってみる 〈実践報告〉

報告者 松田有石先生 大阪府立豊中市立第三中学校

◇目的 みんなと力を合わせる事、おたがいの気持ちになって考えることを促す。

◇対象 1年3組 (38名)

◇時間 1時間 道徳

◇目的設定の理由

明るく活発な雰囲気のあるクラスで、学習面、行事などで能力を発揮することができているが、クラスで係が説明をする時など、最後まで聞かずに質問することが多く係が困ることがある。特に男子生徒に目立つ。これは中1男子にみられる幼稚性からくるものと考えられる。度を越すこともあり、担任からの指導を必要とする。

「形合わせ」の教材を使い、おたがいの気持ちになって考え、人に気を配る体験を通して、力を合わせる事、おたがいの気持ちになって考えることを促す。

◇展開:

1. 担任が「協力するとは、他の人の身になるとは」について、1年3組での例をあげて話をする。その後、ゲームのやりかたを説明する(ニュースレターNo8事例2、WORLD STUDIES ハンドブック84ページ参照)。
2. ゲームをする。生徒たちは黙々と取り組んでいた。15分ほどで2~3人が、30分でほとんどの人ができた。
3. ゲームをやってどうだったかをグループで話し合う。
4. あらかじめ用意した用紙に感想を書く。

◇感想

- ①自分の地図がまだ完成していない時ほかの人の気持ちになって考えてみることはどのくらいできたか。
 - ・人が何を考えているか想像することがこんなにおもしろいなんて知らなかった。だからまたやってみたい。
 - ・みんな少しだけ焦りぎみだったみたいだから、落ち着いてやってみたら少しはほかの人の気持ちがわかったと思います。

- ・少ししかできなかったと思う。自分の決めた物をずっともっていたから、他の人が欲しがっていたなんて…

- ・自分のことを最優先していた。

- ・自分をおいて人の気持ちを優先できた。

②グループ全員が完成させられるよう全体に気を配っていられたか。

- ・1つを考えていると、どんどん紙がきたのでみんなに気を配ることができなかった。

- ・他の人を見て、自分も持っているもので合いそうなものがあったから渡したけれどジャマだったみたい。

- ・自分のことばかりで、いらぬ物だけ欲しそうの人を見つけてやったけれど、本当にその人がほしそうにしていたかはわからない。

- ・心の中で、それをこっちへ渡してと言っていた。

- ・最後に、自分だけできなかったので、完成できるようみんなから気を配られた。

③グループの他の人を競争相手ではなく、同じ課題にいっしょに取り組む相手としてとらえられたか。

- ・まわりの人は皆競争相手にしか見えなかった。

- ・競争心より協力する気持ちの方が強かった。

④自分が探しているものを渡してくれた時、どんな気持ちでしたか。

- ・38人中37人が嬉しかったと答えた。

- ・涙がでるほど嬉しかった。

- ・ラッキーと思ったり、嬉しかったり、いろいろな気持ちになった。

- ・私も協力しようと思った。

- ・嬉しかった。反対に、その人のほしいものが私のところにあるかどうか心配になった。

◇まとめ

生徒たちはゲームを楽しむとともに、お互いの気持ちになって考えることを体験できたと思います。「人が何を考えているか想像することがこんなにおもしろいなんて知らなかった。だからまたやってみたい」と生徒の感想がこのゲームの楽しさをよくものがっていると思います。今後はこのようなことを継続していくことが大切だと考えています。



情報コーナー

○こんなことしています

> 『WORLD STUDIES』実践

(本号11ページ)

現在我々教師が悩んでいる種々の問題の解決のための糸口がつかめたような気がしています。ふだん言葉によって指導(教育)している我々にとって感覚を体験できるカリキュラム(教材)で、生徒たちは感想以上に意味のある体験をしたと思っています。
発信: 松田有石 豊中市立第三中学校
〒560 大阪府豊中市栗ヶ丘町1-1

○いっしょにやりませんか

> 「アースティこどもの国」環境教育プロジェクト (4月19日神奈川県こどもの国)

「こどもの国」の場を利用して、こどもや親、家族向けに、自然に親しむ、自然破壊の状況をやさしく伝える、環境を守るための簡単な方法を実体験するなど様々なプログラムを企画中、実施のためのスタッフを募集しています(100人はほしい!!)。具体的には、①当日のプログラムを計画実施②事前の広報など。個人、グループ、団体を問わず、それぞれができること、人、物を持ちより、フェスティバルを成功させましょう。詳細は下記に。

発信: 森良 YMCAアジア青少年センター
〒101 東京都千代田区猿樂町2-5-5
TEL 03-3233-0611 FAX 3233-0633

○お知らせします

> 異文化コミュニケーション研修会

異文化の人々とのコミュニケーションを円滑にするための態度を養うシミュレーション、ロールプレイ、ゲーム、練習問題などを実際に体験するワークショップ。4月18日、青山学院大学総合研究室にて(要予約)。詳細は下記にお問い合わせください。
問い合わせ: 異文化コミュニケーション研究会事務局 TEL 03-3580-0286

発信: 八代京子 TEL 03-3330-6336

> こんな本があります

『学級経営実践マニュアル』(手塚他著、小学館)『教師業ワークブック』(シドニ

・B・サイモン著、黎明書房)『学校グループワークトレーニング』(横浜市学校GWT研究会著、遊戯社)が、たくさんの事例とともに自分自身が体験学習を進める上でとても参考になりました。

発信: 能仁宏樹 〒510-02 鈴鹿市郡山町28

> 資料収集に利用しては?

国民生活センター情報資料室では、生活に関する図書、資料、調査報告書、統計等が広範囲にわたって体系的に収集、整備されている。単行本約36,200冊、内外雑誌570種(1989年3月現在)、各種資料ほか、商品テスト結果や雑誌論文等はデータベース化され探索可能。新聞の切り抜きも項目別にファイルされ充実。一般公開制で閉架式なので、だれでも自由に閲覧、貸し出しできる。利用時間は平日10~17時。JR又は京浜急行品川駅表口から徒歩5分。
問い合わせ: TEL03-443-6211(内線252)
東京都港区高輪3-13-22国民生活センター
発信: ERIC

○ERICにひとこと!

前号同封チラシの通信欄をご返送くださったみなさん、ありがとうございました。その中から一部を御紹介します。

> わたしはこうおもいます

◇高校になると生徒は授業中に主体的に動こうとしません。生徒中心の授業になるようにいろいろ工夫していますが高校で使える教材があったら早速使用して報告したいと思います。(高校教諭)

> 実践してみた事例は?

◇「めかくし散歩」は何も感じなかった私たちに異世界を感じさせる。他人の立場に立つということが体験できるよい教材であった。(小学校教諭)
◇「写真を使って」を小学生3~6年の2

グループで行いました。1枚の写真から45問出したグループと20問出したグループで共通の質問が少なく、こどもの発想の自由さに驚きました。(社会教育)

◇「無人島」(ほしい・したい、必要、当然)とスペースコロニーを組合わせて、人権学習の事前授業として使ってみて、小・中学での人権教育に「またか?」と思っていた生徒にも好評でした。(高校教諭)

◇「一番大切にしたいことは」の個人レベルの項目を、中学生に合う内容に直してアンケート形式で実施し、保護者会でお母さんたちに話をしました。(中学教諭)

◇子供の通っている小学校の(2年の)担任にコピーしたNo.6を渡しました。丁度その時「思いやり」「やさしさ」をクラスで考えていたそうです。(親)

◇『南の夢の島...』こどもの権利条約とつなげて(小学校教諭)

◇『貿易ゲーム』社会教育関係団体の青少年部の人たちとやりました。(社会教育)

○今、ERICでは...

> オーストラリア研修ツアー

日程は今夏8月22~30日、訪問先はシドニーとブリスベンを予定。定員12人。環境、異文化理解、人権、平和教育の『先進国』における実践を学びに、学校や教育団体を訪ねます。

お問い合わせ・申し込みはERICへ。

> 『WORLD STUDIES ハンドブック』増刷!!

おかげさまで初版3千冊は2か月で売り切れ、増刷しました。まだの方、もうお持ちの方はお友達に、是非お求めください。ご意見・ご感想もお待ちしております。

> 実践報告を送ってくださる方が少しずつ増え、嬉しいかぎりです。本誌でも随時ご紹介しますので是非お寄せください。

(編集担当)

ERIC

International ERIC NEWSLETTER No.10 February 1992

国際理解教育・資料情報センター

〒114 東京都北区田端1-21-18 津田ビル1F 電話—03-5685-1177

このNewsletterの印刷・編集費用の一部は大竹財団からの後援です。

リサイクルを考えて、印刷用紙に再生紙を使用しています。